

## 隠岐の自然学散歩－7 「島後の火山景観－その2」

前報に引き続き、島後の古い火山の顕著な痕跡を紹介しましょう。島後では約 600 万年前から火山活動が始まり、それが 50 万年前まで断続的に発生しました。

以下にご紹介する場所は一般観光ルートから外れた辺鄙な場所に存在していますが、何れも島後の景勝地となっているので、隠岐に出向かれた際には時間が許せば是非訪れて見られることをお奨めします。



### ①ローソク島：

島後の北西部に位置する久見の西側に、多くの島が点在していますが、中でも特徴的な形をしているのがローソク島です。


この島は 550 万年前に噴火した粗面岩溶岩が固まる際に柱状節理ができました。

それが日本海の荒波で波蝕を受け、節理に沿って岩盤が崩落し、ローソクの本体と上部の芯が絶妙なかたちに形成されたのです。

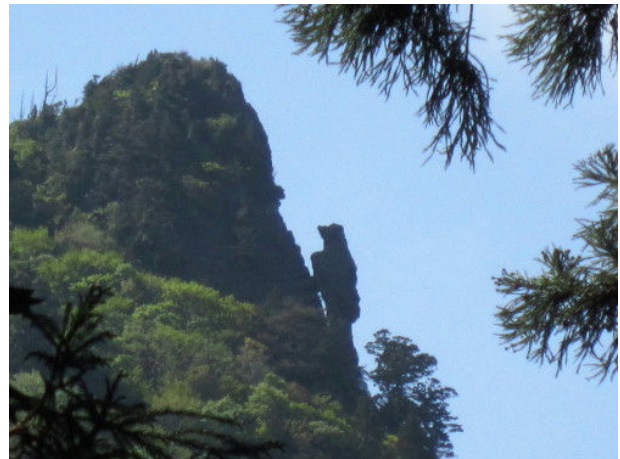
夕日が日本海に沈む前、丁度芯の位置に太陽が収まり、まるでローソクが燃えているかの如くに見える写真を目にしますが、これは遊覧船に乗って海上から眺める必要があります。

### ②トカゲ岩：

島後の東側の葛尾山中にある岩壁を巨大なトカゲが登っている様に見える岩があります。これは 550 万年頃に噴火した火砕岩が堆積しその下部に貫入してきたマグマがゆっくりと固まって粗面岩ができました。

その後上部の火砕岩が風化崩落して地表へ現われた粗面岩の硬い円柱状岩脈  が残って写真の様なかたちに形成されたのです。

近くから見ると細かい部分もトカゲにそっくりで、地元の人には日本の三大奇岩の一つだと自負している様ですが、このたぐいの奇岩は日本中いたる所で存在しており、認定者が不在の「オラが国さの自慢話」でしょう。



### ③岬玄武岩の爆裂火口：

隠岐の連絡船で西郷港に入る前、左手に見える台地の崖下にお椀を真半分に切ったような地形が見て取れます。

これは約 50 万年前に噴火した玄武岩マグマの火口がその後の再爆発で東半分が吹き飛んで、すり鉢状の火口壁の断面が表れた、隠岐で大規模な火山地形として唯一残っている場所です。

上部は平らで見晴らしの良い玄武岩台地となっており、現在はこの地形を生かして隠岐空港が設置されています。